

第3回 町田市成瀬センター建替検討委員会

会議録要旨

開催日時：2011年12月22日(木) 18:00～20:00

開催場所：町田市成瀬センター会議室(3)

出席委員：前島正光、中里孝夫、稲木健志、鈴木生一、田中米司
井上祐次、萩原勝生、市川豊、赤澤純、伊藤倭子(敬称略)

市側出席者：河野市民部次長、大谷市民協働推進課長
三好市民総務課担当課長、渋谷営繕課営繕第一係長
藤原市民総務課担当係長、服部市民協働推進課担当係長

コンサルタント：湯田元就、塚田哲史

傍聴者：無

〈次第〉

1. 開会
2. 市民部長挨拶
3. これまでの検討の再確認
4. 成瀬センターづくり会議で出た主な意見・利用者アンケートの結果
5. 議題
 - ①増築棟およびホール棟の検討内容の確認
 - ②施設利用と建物の配置(基本計画素案)に関する検討
6. 連絡事項
7. 閉会

〈配布資料〉

- 【資料1】 第2回成瀬センター建替検討委員会会議録要旨
- 【資料2】 第2回委員会で出た諸施設等に関する委員発言のまとめ
- 【資料3】 成瀬センターづくり会議ニュース第3号
- 【資料4】 成瀬センター諸室等配置(A案・B案)について／第3回WS資料
- 【資料5】 利用者アンケート結果の概要
- 【資料6】 増築棟およびホール棟の検討
- 【資料7】 成瀬センター建替基本計画(素案)報告書
- 【資料8】 A案・B案の成瀬センターづくり会議における主な意見

1. 開会

事務局の進行により開会。

2. 市民部長挨拶

(市民部次長)

本日は 12 月議会の本会議が開催されており、案件が多くて長引いている。そのため市民部長が当検討委員会に間に合わず挨拶することができない。皆様にはくれぐれもよろしく伝えて欲しいとのこと。

(委員長)

本日は具体的な検討を進めていく。第 2 回検討委員会で検討した内容の方向付けを行う。

3. これまでの検討の再確認

事務局から【資料1】「第2回成瀬センター建替検討委員会会議録要旨」を説明。

事務局から【資料2】「第2回委員会で出た諸施設等に関する委員発言のまとめ」を説明。

(委員長)

事務局から説明があったように資料2を議題検討の中で利用したい。

4. 成瀬センターづくり会議で出た主な意見・利用者アンケートの結果

事務局から【資料3】「成瀬センターづくり会議ニュース第3号」を説明。

事務局から【資料4】「成瀬センター諸室等配置(A案・B案)について／第3回WS資料」を説明。

事務局から【資料5】「利用者アンケート結果の概要」を説明。

(事務局)

第4回成瀬センターづくり会議において平面計画A案およびB案の比較検討を行った。結果としてB案に賛成する参加者が多かったようだ。また利用者アンケートを一ヶ月間実施したところ下記のような傾向が確認された。

- ・高ヶ坂、成瀬地区以外からの利用者が予想より多い。
- ・1回当りの利用人数は10人以下が多い。
- ・音を出す活動(音楽、ダンス等)が多い。
- ・駐車場、施設設備の充実が利用者が最も重視することである。

(委員長)

アンケートの結果を拝見すると、成瀬から来られている方が152件中55件、高ヶ坂や南成瀬や成瀬台から来られている方が152件中50件、市内の他地域や町田市外から来られている方が152件中39件となっている。こういった状態が駐車場充実に対する要望へ現れているように考えられる。また、活動内容については音を出す活動が上位であったが、音楽あるいは同じように音を出す日舞・舞踏、演劇・芸能、琴・三味線まで合わせると全体の35%程になる。社交ダンスや軽スポーツ、軽体操、その他のダンスなどを合わせると全体の半数程度となっていることが

アンケート結果から読み取れる。

5. 議題

①増築棟およびホール棟の検討内容の確認

(委員長)

配布資料を参照頂きながら議題について検討していきたい。まず基本計画素案等について事務局から説明していただきたい。

(事務局)

配布資料についてはコンサルタントから説明を行う。

(コンサルタント)

「成瀬センター建替基本計画(素案)報告書(資料7)」は現時点での案としてまとめたものである。内容の構成として、第1章、第2章はこれまでの経緯や検討内容を整理し、第3章は市民の皆様からいただいた意見・要望をまとめている。本日の検討内容もここに含まれる予定である。第4章は基本計画(案)となっており、検討した結果の決定事項を掲載している。第5章は委員会内で検討を行ったが、留意事項として設計へ申し送りする事項を掲載する。第6章は事業推進に向けての事業スケジュールと概算工事費を提示して、第7章は資料編となっている。「A 案・B 案の成瀬センターづくり会議における主な意見(資料8)」には平面計画図 A 案、B 案のどちらが良いかという検討結果をまとめている。それぞれに良い点、悪い点があるが、全体としては B 案(グラウンドに面して建替棟を配置する案)が良いという意見が多かった。今後は B 案を修正しながら検討を進めたい。

(委員長)

基本計画報告書については、この場で全て確認することはできないので、各自ご覧いただいたうえ次回の委員会で意見をいただきたい。

それでは「増築棟およびホール棟の検討(資料6)」に基づいて考え方を整理していきたい。これまで説明のあった成瀬センターづくり会議の意見や第1回、第2回の検討委員会の意見を踏まえながら一つずつ方向性をつけていきたい。

増築棟の検討の中で多目的室と会議室は検討内容が共通する部分があるので同時に考えていく。多目的ということの主眼にし過ぎるとすると無目的になり中途半端になってしまう恐れがある。成瀬センターづくり会議でもしっかりと特色を持った部屋にしたいという意見がでていた。会議室については会議目的として使われる機会が実は少ないという意見が出ていた。多目的室は複数配置する予定であるが、各部屋に性格づけをしてはどうかと考えている。例えば、音楽を主目的とした多目的室、軽スポーツを主目的とした多目的室、会議にも利用できる多目的室。音楽を目的とした部屋の場合は遮音・防音・吸音性能を考慮した部屋となる。映写、映画会ができる部屋であればスクリーンを設置する必要がある。ホールを利用する際のリハーサル室として利用したいという意見もあった。軽スポーツを目的とした場合、どの程度のスポーツを行うかにもよるが、床の衝撃や振動を他に伝えないような工夫が必要である。また、ダンスの利用時には鏡があった

ほうがよいのではないかという意見もあった。会議を目的とした場合にはホワイトボード等が必要なのではないか。これらのような特性を踏まえた部屋について議論を行いたい。

(委員)

多目的室と会議室は目的が異なるため、分けて考えた方がよい。多目的室と会議室では面積が変わってくると思うがどれくらい違うものか。

(委員長)

面積については現段階では言及できない状態である。いままで出た意見を参考に考えると、会議は実際にどれくらいあるのか、会議だけに特化すると他の用途に使えなくなることに留意する必要がある。

(委員)

純粋な会議は少ない。運営委員会ぐらいではないか。

(委員)

会議についても絶対に遮音が必要な会議もあれば、そこまで気にしなくてもよい会議もある。しっかりとした会議をしたい場合は音楽を主目的とした部屋で会議を行い、遮音を気にしなくてもよい場合であればフリーの空間でできる。軽スポーツであれば、スポーツの種類によって天井の高さが変わってくる。更衣室も必要となってくる。多目的室というのは先に述べた3種類に分けることができると考えている。理想は3種類の多目的室を全て配置することだが、空間的に可能なのか、又本当に必要なのかを考える必要がある。どれを優先すべきか考えた場合、アンケート結果を参考にすると音楽ができる多目的室が必要とされているのではないか。また、以前から意見が出ている卓球等ができる部屋があるとよいのではないか。

(委員)

全体のバランスが重要である。様々な意見が出ているので、限られたスペースの中でどれを優先するか優先順位をつけなければならない。

(委員長)

面積については皆様からいただいた意見を基にプランを作成する段階になれば、ある程度把握できるようになる。

(委員)

成瀬センターはスポーツ系の利用が多く、会議室については近隣の成瀬会館や成瀬駅前市民センターなど会議に向いている施設がある。特色を出すのであれば多目的室を重視すべきという提案が第1回検討委員会であったと思う。

(委員長)

この近くには沢山の集会施設がある。成瀬センターだけで完結させるのではなく周辺施設を有効に利用したい。会議にも使える多目的室を設置してゆくと捉えるとよい。面積配分についてはこれからの課題とする。

(委員)

軽スポーツとしては卓球を行いたいという意見をよく聞く。完全な会議室ではなく、それ以外に

も利用できる方が良い。限定してしまうと空きが出た時にもったいない。

(委員長)

結論としては、特性を持たせた多目的室、他の用途にも利用できるような会議室を設置する。音楽に特化した多目的室の場合、(ホール利用に対応する)リハーサル室、あるいはサブホールの部屋があった方が良くと思われる方はいるか。

(委員)

多目的室に椅子を置いて 100 名程度の講演会ができる部屋として使えたら良いと思う。

(委員長)

通常椅子を並べて 60 人～100 人の利用を想定すると 100～150 m²が必要となるため、前提条件である合計面積 1,000 m²を考慮すると難しいのではないか。

(委員)

リハーサル室は確かに必要かと思うが音楽利用の多目的室があれば十分である。

(委員)

部屋に仕切りがあり状況によって繋げて広く使えるのは良い。

(委員長)

部屋を仕切りで区切る利用方法はあるが、当然音は漏れる。また、仕切りをするための作業が大変である。個人的な意見ではあるが部屋を仕切る使い方はしないほうが良い。色々な用途に使えることは良いことなので検討を行いたい。先ほど軽スポーツで卓球というご意見があったが、他にはどのような用途が考えられるか。

(委員)

ヨガやダンスがある。

(委員長)

卓球台は常設にするか、移動可能なものにするか。

(委員)

倉庫に収納できるものが良い。

(委員)

エレベーターについては備品を運べる広さを想定して欲しい。小さいエレベーターでは運べない。

(委員長)

どのような備品をエレベーターで運ぶのかは 1、2 階にどのような部屋を配置するかによる。できるだけ同じフロアで同じ備品を利用できるようにしたい。

(委員)

センターまつりでもパネル等を運ぶ機会があり大変である。

(委員長)

軽スポーツについては卓球をベースに考えることとしたい。

(委員)

地下を使うことはできないか。

(委員長)

地下や屋上の利用を考えたいが、利用の想定をしてもよいか。

(事務局)

屋上利用については成瀬センターづくり会議でも要望が出されたが、子どもが転落する危険があるという意見もあった。引き続き設計の段階で考えたい。地下については検討からはずしていただきたい。地下の利用は地上に比べて1.5倍程度の費用がかかってしまう。

(委員長)

和室の利用について、茶室としての利用が殆ど無いことを踏まえ一部屋でよいか。また、広い部屋である必要性があるか。

(委員)

多目的室があるので広い部屋は求めている。

(委員)

無くすのは良くないが、一つあれば十分ではないか。最小限でよい。8畳程度あればよい。

(委員長)

和室は8畳1部屋を設置する。水屋、炉は設置しないこととする。

(委員)

和室を設けるとしたら1階が良いのではないか。ホール舞台利用時の着替えに利用できる。具合が悪くなった人が出た場合に横になれる場所としても使える。

(委員長)

次に倉庫について検討したい。前回の検討委員会ではセンターまつりで使う神輿等を収納したいという意見があった。町田市としては防災倉庫を屋内に設けたいという意向でよいか。

(事務局)

その通り。屋内に防災倉庫を設ける。

(委員)

カンパン、寝具等を備える予定はないか。

(委員)

それも含め成瀬センターは災害時の避難所になるのか。

(事務局)

地域防災計画において成瀬センターは地震の際は避難場所になる。洪水等の場合は臨時避難所となる。

(委員長)

防災倉庫の設置は義務付けられているか。何をどれだけ入れる予定か。

(事務局)

非常用の食料、アルファ米とビスケット。備蓄倉庫及び施設内の倉庫に一部収納したいと防

災課から相談を受けたことがある。

(委員長)

成瀬センター周辺の人口等により収納数が決定されるのではないかと。もしくは、入れられるだけ収納していくという方針か。

(事務局)

できれば入れられるだけ収納したいと考えている。

(委員)

屋内である必要があるか。スチール製の外部倉庫等でよいのではないかと。

(事務局)

防災倉庫についてどの程度の面積を使用するのか防災課に確認をする。

(委員)

神輿や櫓を収納するのであれば、現状の倉庫と同様の面積が必要になる。

(委員長)

次に機能について検討したい。バリアフリー、ユニバーサルデザインは今やどこでも対応しているものであるが、健常者、身障者、子供、高齢者など多様な方が使いやすい施設にすべきと考えるがどうか。

(委員)

当然である。車椅子専用トイレなども必要である。

(委員長)

入館者管理として、監視カメラをどうするか。また見通しの良い場所に受付を設置したり、建物の死角を無くすことが前回に意見として出されていた。まず監視カメラについて考えてみたい。

(委員)

公共施設に監視カメラは義務付けられていないか。

(事務局)

市民病院や市民フォーラムには設置してある。

(委員長)

設置基準はあるか。例えばこのセンターに付けると過剰とみなされるか。

(事務局)

設置基準はない。他市では設置されている事例を聞いたことがある。

(委員)

不特定多数の人が出入りするので監視カメラは付けたほうが良い。近隣の防犯にもつながる。防犯カメラ設置場所と表示すると犯罪の抑止力となる。

(委員長)

安全な施設をつくるという意味で、できれば監視カメラを設置することとする。続いて駐車台数についてだが、前回の会議で30台程度あればいいのではないかと意見があった。その中で身障者対応の駐車場は1割3台程度あってよいのではないかと。自転車置場についても極力確保

していただくこととする。堀切や二ノ宮像などは歴史的な意味もあるので、配置は別としてどこかに生かしていくこととしたい。掲示板については基本的に成瀬街道側出入口と駐車場側出入口の2箇所に設置するということがよろしいか。また太陽熱など自然エネルギーの利用については費用対効果を考慮することとなる。

(委員)

自然エネルギーの利用については町田市の方針によるのではないかと。町田市として自然エネルギーにどの程度力を入れるかになる。要望としてあげるの筋違いではないか。

(事務局)

自然エネルギーの利用は忠生市民センターなどの他の計画でも意見は出ている。市としては可能であれば少しでも導入をしていきたいという考えである。

(委員)

一般住宅にも導入を要求している以上、自然エネルギーの利用は公共施設としては積極的に取り組むべきではある。

(委員長)

成瀬センターへの要望としては屋上緑化も含めて自然エネルギーの導入について考慮を望むという意見とする。ところで地域活動室を設けることは町田市の方針であるか。

(事務局)

町田市の方針である。町田市中期経営計画における重点政策プランとして「市民協働の町の創造」という項目を目標として5年間集中して政策を行ってきた。例えば情報を公開して、わかりやすく行政の説明をしていくことを目標としてミニ市政懇談会を開くようになった。数年前までは市政懇談会は年に3、4回しかやらなかったが、ミニ市政懇談会は年に30回以上開催している。すなわち市長が直接伺い、今行政が考えていることとお話するという環境が出来上がってきた。また施設面の充実も図り、中規模集会施設を35箇所設置した。また町内会、自治会からの要望は市民協働推進課を通して庁内の部門に振り分けていく情報窓口の一本化という環境をつくり、市民協働推進課を強化する目的で市民協働推進担当部長を設置するなど大きな枠組みがこの5年間で出来上がった。これからはこれを充実させるべく各地域に活動できる場所を確保する必要がある。そこでこれからつくる施設については1室必ず地域活動室を設けるという方針で進めていく。

(委員長)

地域活動室の面積はどれくらいを想定しているか。

(事務局)

約50㎡を想定している。

(委員)

専用の部屋が必要なのか。常時、人が配置されるのか。

(事務局)

いつでも活動できる場所を設定していく方針なので専用の部屋となる。人が常時いるわけで

はない。行政の出席が必要であれば、どの課でも説明や相談を行うこととなる。

(委員長)

最後にホールについて検討したい。前回の議論の中でどの程度の品質を保てばよいかという話をした。プロの演奏家が利用するという事は考えられず、市民の活動発表会などに利用されることが想定される。問題点として、まず内装にかなり劣化が見受けられるので見直しが必要である。それから遮音、防音等の音に関する性能を向上させて欲しいという意見が多く出ている。照明や幕などの舞台装置についてはあまり意見が出ていない。個人的な意見になるが、舞台上で音を出した時に前方向に音が伝わっていかない。反射板があると改善されるのではないか。ホールの中の照明については明るくなるのに時間がかかると感じている。

(委員)

ホール東側の階段のあるスペースをふさぐことはできないか。いつも学生がたむろしてゴミを散乱させる場所となっている。音も漏れるので、ここに倉庫を延長してもよいのではないか。

(委員長)

ホールは大勢の方が集まるので避難の問題もあるのでよく検討しなければいけない。音が漏れることは完全に改良する必要がある。トイレ側の通路は扉が一重になっていて音が漏れる。東側も扉が一重になっている。音が漏れるということは音が入ってくるということ。雨の日を利用すると雨の音がかかり入ってくる。また空調が非常に良くない状況である。

(委員)

舞台の袖にピアノがあるが、できれば納められるようにしたい。音楽以外の利用があった場合にピアノに傷がつく恐れがある。

(委員)

また南側の業務用駐車場からの搬入が難しい。ホール楽屋へのアクセスはそこしかない。大きな楽器等を入れることができない。搬入搬出へのアクセスについても考慮して欲しい。

②施設利用と建物の配置(基本計画素案)に関する検討

(委員長)

増築棟とホール棟についてひと通り議論できたと思う。次にプラン A 案、B 案について検討を行いたい。センターづくり会議では B 案を支持する声が多かったようだ。

(委員)

センターづくり会議で両案の図面を比較検討したと伺ったが、どのような意味で提示しているのか。このプランで計画を進めたいと説明しているのか。どのような経緯でこの図面が作成され、センターづくり会議においてどのような説明がされているのか。

(事務局)

まず議論のたたき台として A 案を成瀬センターづくり会議で提示し、その際に B 案に近い計画が良いとの意見が出された。それを事務局で集約して提示した。その後、A 案、B 案の比較ではなく A 案、B 案それぞれのメリット、デメリットは何があるかという検討を行っている。

(委員)

B 案の建替棟の下に災害用給水槽の配管が通って裏に抜けていたと記憶しているが。

(委員長)

ここでの議論はゾーニングとしてどういう捉え方をすれば良いかということであり、建物をグラウンド側に持っていけばよいか、もしくは現在の位置に配置すればよいかを考えている。それぞれにメリットデメリットはあるが、どのような配置にもっていくべきなのか考え方を整理したい。

(委員)

グラウンドの利用率は高いのか。

(委員)

グラウンドの利用集計は行っていないようだ。

(事務局)

市民協働推進課でグラウンド利用の申し込みは受けているが単独で利用したいという要望はお断りしている。ゲートボール利用については昭和58年に市の判断で優先的に活用してもらうという方針を示し、それが現在まで続いている。

(委員)

せっかく広いグラウンドがあるので積極的に使わないともったいない。またグラウンドの利用を検討するのであれば外から利用できるトイレを設定していただきたい。

(委員長)

事務局としては災害時にグラウンドをどのように利用するのかイメージはあるか。

(事務局)

地域防災計画において災害直後の避難場所となる。最終的には学校に避難していただくので、その後の利用は応急用の瓦礫置き場、復旧資材の置き場となる。

(委員長)

復旧資材等の搬入を考慮するのであれば、非常時に幅の広い出入口があってもよいのではないか。またスポーツで使う場合、どのような使い方をするかにより最低限必要な広さが決まる。想定される活動はゲートボール利用が現実的か。

(委員)

ゲートボールのコートは1面確保し、予約が出来るようにした方がよい。その他はフリースペースとする。元が学校であったことからグラウンドになっているだけなので、芝生を植えたり、遊歩道を設置したりしてもよいのではないか。

(委員長)

スポーツではなく交流の広場として利用するのも良い。

(委員)

グラウンドをどのように使うのかという話が十分されていなかったようだ。

(委員)

緊急時や災害時を考慮した場合はA案の方が良いと思う。

(委員長)

今日お見せした図面についてすぐにA、Bどちらが良いかを決定するのは難しい。持ち帰って考えていただき、次回決定することとしたい。部屋の利用の方向性については大分見えてきた。建替基本計画(素案)に A、B それぞれの良いところ、悪いところが記載されているので確認し、最終回で議論してプランの方向性を決めたい。またグラウンドの使い方についてももう少し議論を行いたい。そして次回が最終回となるので検討委員会として結論を出したい。

(委員)

もし意見がまとまらない場合に検討委員会を延長するか。

(委員長)

次回でまとめてしまいたい。参考までに、個人的に感じた意見を申し上げると A 案は建物が 1 つの塊となっている。避難時に経路が少なくなるので B 案の方が優れているように感じられる。人の動線と車の動線の分離についても B 案の方が優れているのではないかと。日当たりや通風についても B 案の方が良いと感じられる。

6. 連絡事項

(事務局)

現在利用している校舎棟について耐震診断を 7 月中旬に行っている。その診断結果が 12 月末に出る予定となっている。その結果を取りまとめて市役所に提出されるのが 1 月中旬頃を予定している。その結論により旧校舎棟をどのように取り扱うかが決定される。ただ 12 月上旬に 2 月分の利用予約が開始されるため、既に 2 月以降の利用申し込みの受付は中止している。また、12 月と 1 月の予約の入っていない部屋の利用申込みも中止している。診断の中間報告が情報として入ってきており、甚だよろしくない結果になる危惧をもっている。1 月中旬以降に出る最終診断結果により市として正式な判断を提示する。そこで次回 2 月 2 日の検討委員会は安全面を考慮し、会場を市民フォーラムに変更させていただく。また何かご意見等あれば 1 月 6 日までを目途に市民総務課へご連絡いただきたい。

7. 閉会

事務局の進行により閉会。

以上